

第59回インテリア設計士資格検定試験

＜1 級 論 文 用 紙＞

＜課題＞ 超高齢社会が到来し、望ましい高齢者像もリタイヤ後の生活者像から、仕事の持続や、趣味・特技を生かした創業、地域やSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を介した実際の交流など社会参加者像へと変化しつつあります。

住宅のインテリア設計を考える上で、どのような提案が可能か、次の2つの観点から具体的に論じなさい。

- 1) 自宅内に仕事や交流の場を想定した提案
 - ・計画面
 - ・設備面
 - ・施工面(材料等)
- 2) 健康で自立した期間の持続を旨とする提案

(文字数は800字以上1,000字以内とする)

1/3

これからの高齢者の望ましい生活像は、引退ではなくアクティブに社会と関わる方向へと移行し始めている。創業や地域活動・SNSを介した交流などが活発化する現代社会が基盤である。これに対応できる住居空間について考察し、合わせて健康で自立した高齢者期間の持続に資する住宅のあり方も検討しよう。

100

あまり費用をかけずに仕事や交流に対応可能にという前提には、新築ではなく改修がふさわしい。計画面では、まずプライベートとパブリックの分離、つまり人の頻繁な出入りに対応できること。サークル活動や各種教室・事業所の開設、またSNSを介した民泊事

200

業などには、家族とは別の動線計画が必要となる。入口の分離、できれば道路から直接入室可能なこと、可動壁での時間帯による空間分割、また使われなくなった子供室などの合体による新たな空間創出など工夫次第である。

設備面ではできれば水回りの共用は避けたい。宿泊事業では専用バスルームはベーシックなニーズである。教室などの内容によっては専用のキッチンも検討項目になるだろう。この他、空調や照明など空間に適合した電気設備の要求度も高い。これらには費用は少なからず発生するが、豊かな資産になるよう営業努力も健康長寿に資する筈である。

改修に当たっては材料の選択も重要である。床材は土足可能で耐久性の高い石材やタイルまた木質フローリングが適合する。塗り壁は半永久的に使用することが可能だ。投資の回収が必要な賃貸物件の営業用改修とは異なり、

自宅の改装ゆえ、低コストばかりをねらうのは精神的にも効果的にも避けるべきである。

最後に健康で自立した高齢期間の持続には生活意欲の持続が欠かせない。上記の改修とその結果は施主をのんびりした引退生活者之間違いなくとどまらせないであろう。しかし、体力・気力の衰え、また社会との交流も徐々に少なくなっていく中でも、いつまでも自宅で生活しようという意識が自立期間を継続させる。それを支える空間や設備面を考えるに、ここでパブリックな水回りと外部からアクセスしやすい空間は再認識されよう。つまりサポートされやすい空間であり、他者が訪問しやすい空間である。結果的に社会とつながる社会的存在として高齢者が認識され、自らの自己実現出来るフィールドが持続するのである。